

## 私と近畿双松会

(H13・近畿双松会報)

岩成哲男 (高9期)

(前略)

私と近畿双松会の出会いは昭和39年の年末に、梅田の多幸梅で近畿双松会の総会が忘年会を兼ねて行われた時にさかのぼります。私は大学の先輩に連れられて出席させていただきましたが、そのとき近畿双松会の大先輩方の意気盛んな姿に接し、非常に感激したことを今でもはっきり覚えています。私はもちろん部外者で、当時20代半ばの大学院の学生という若輩者で、すべての先輩方ははじめてお会いする方ばかりでしたが、同じ松江の学校で学んだという気持ちがはじめてと思われなほど懐かしさと親しみを覚えたものでした。

特に当時の会長であった永岡孝二さまが私をつかまえて、お話をされたことが私のそれ以後の近畿双松会への思いと行動の原点となったといえます。40年近く前のことなので詳細な内容は失念しましたが、その大筋は次のような内容でした。

「君たちはまだ若く、自分の力を信じ、同窓会の絆など必要はない、と考えていると思うが、それは若者としてごく一般的な思考です。しかし年をとると、同窓会の良さがわかるものです。それは同窓生という理由だけで先輩後輩が損得なしに付き合える人間関係ができ、それがその人の幅を広げるからです」という前置をされた後に、近畿双松会の運営方向について話されました。

それは「近畿双松会は現在の会員相互の親睦を図るとともに、将来会員となられる今の若い人たちのことも念頭に置いて運営する」ことであり、そのためには

- ①会員を増やす努力と、会のマンネリ化を防ぐ必要がある。
- ②幹部は先を見据えたビジョンをしっかりと持つ必要がある。
- ③若い人の企画やアイデアをどんどん採り入れて運営する。

④10年、20年先のリーダーを育てるように心がける。

というようなお話でした。そして最後に「(中略)今日は多分かたぐるしくて楽しくなかったと思うが、そのうちに楽しくなる、また自分から楽しく変えることができると信じて、次もぜひ出席して下さい」といわれ、次の案内状のためとの理由で、私の住所をメモられました。

当時の近畿双松会は旧制松江中学の卒業生が正会員、および教職員が特別会員ということで構成され、当然、会員は男性のみという会でした。その中で永岡会長は、将来は松江中学の後継校として、新制松江高校、松江北高校・松江南高校まで会員を拡大する構想を持っておられたことを今でもはっきりと記憶しています。

そして私は翌年の昭和40年には松下電器産業(株)に入社し、(中略)平成11年11月20日付で定年退職しました。定年退職の当日は休日勤務はありませんでしたが、丁度ホテル日航大阪での近畿双松会の総会の日で、特別な思いで皆様方の受付をさせていただいたことがはっきりと記憶に残っています。会社に入る前から関係した近畿双松会に、定年退職の日にこんな形で係わるとは夢にも思わなかったことでした。

(中略)

ところで永岡会長の会員の範囲拡大の案には、近畿双松会の中に賛否両論があり、特に女性会員を入れることには、今から考えると時代錯誤と思われるような信じがたい強い抵抗があり、不調に終わったそうです。会の中の若手(旧制と新制の境界におられた新制松高三期まで)の方々はその結果により、それではと、近畿双松会の弟分である、近畿の新制高校の同窓会を作ろうとの話になり、私もその設立準備のために参加させていただきました。

しかし、ここでも会員の範囲の件で大きな問題が生まれました。女性会員の件は全く問題になりませんでした。松高の後継校として北高は問題ないとして、南高を入れるかどうかということで、次のような論点から長時間議論したことを覚えています。

「北高と南高は政治的に校区で分割されたにすぎないから、一緒にすべきだ」

「両校は今やライバル校の関係にあり、今後両校の卒業生が年々増加することを考えると、一緒の同窓会ではうまく運営できなくなる。」

そして結果的には後者の意見をとりいれて、昭和42年に「近畿松江高校・松江北高校同窓会」が発足しました。このように近畿双松会とお互いに別組織ながら、交流を保ち、近畿双松会の総会にも何回か出席させていただきました。

そしていつかはスムーズに近畿双松会の一員になることを考えていましたが、約10年ほど経過して、いよいよ近畿双松会との合併問題が持ち上がり、その具体的な方法をめぐり、両者の間の誤解によりギクシャクとした関係が生じ、冷却期間をおくために近畿松高・北高同窓会を休会するという措置をとらせていただきました。一方、近畿双松会の方では松高・北高の方々も希望すれば入会できるような会則に変更していただき、事実上両者が一緒になる形になりました。そして十数年の時間が経過し、平成になってから、両者の幹事が集まって正式に合併することになりました。

そして、総会の休会宣言のときに「結論は私が

預かる」という形になっていましたので、両者の合併を本部の双松会の会報で、全会員に知らせる方法をとらせていただきました。その間、多くの方々に多大な心配と迷惑をかけたことについて、大変申し訳なく思っています。

そして、皆様方のご理解により近畿双松会が今日のような隆々とした運営になっていることに大変感謝しているとともに、あのときの措置は正しかったと感じています。

そのような理由で、私自身は近畿双松会への入会は全会員へ連絡を出した後でかなり遅くなりましたが、入会後は、総会や行楽会に積極的に参加させていただき、また多くの方々には個人的にお世話になっている次第です。

(中略)

私は定年退職後は松江に帰りましたが、近畿双松会との関係を大切にしていきたいと思います。近畿双松会の方も企画力とアイデアでますます発展し、松江北高を卒業して近畿に出てきた若い人々が、自ら入会手続きに来るような会へと充実発展することを祈念して筆を置きます。

(平成13年8月記)

**お知らせ**

近畿双松会  
近畿松高北高同窓会  
大合同

長年の念願でした両会が大合同し、新近畿双松会として発足致しました。近畿と母校の「かけはし」として、同窓各位の交友、親睦の輪を拡大しましょう。

**平成三年度総会のご案内**

日時 平成三年十一月二十二日(金) 十八時より

場所 大阪弥生会館(JR大阪駅北側) 会費 男性八千円 女性七千円 家族六千円

当日は来賓として校長先生並びに諸先生、双松会本部役員、旧先生各位がご臨席されます。

連絡先 近畿双松会事務局  
〒550 大阪市西区本田一丁目三九番 石倉ボンブ(株)内  
TEL 〇六・五八三・一四九〇  
FAX 〇六・五八四・二〇六六

---

**近畿在住の卒業生の皆様方へ**

昨年10月近畿松江高校・松江北高校同窓会の今後の運営について幹事会を開き検討した結果、

- (1) 今後の行事はすべて近畿双松会と合同で開催する。
- (2) 近畿双松会の維持と発展に積極的に協力参加することに決定いたしましたので皆様方にこの双松会報の紙面を借りてお知らせいたします。

近畿在住の皆様方におかれましては今後ともどうかご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

近畿松江高校・松江北高校同窓会 会長 和田亮介  
以下 幹事一同